

2023年度
学校自己評価報告書
(2022年4月1日～2023年3月31日)

2023年5月25日
学校法人神戸学園
専門学校アートカレッジ神戸

目 次

I. 学校の現況

II. 評価の基本方針

III. 重点目標

IV. 評価ごとの記述

V. 評価項目

1. 教育理念・教育目標

2. 学校運営

3. 教育活動

4. 学習成果

5. 学生支援

6. 教育環境

7. 学生募集

8. 財務

9. 法令等の遵守

10. 社会貢献

1. 学校の現況

1. 学校名

専門学校アートカレッジ神戸

2. 所在地

兵庫県神戸市東灘区向洋町中1-15

3. 沿革

学校設置認可年月日

1965 (昭和40)年	11月	芦屋市に芦屋芸術学院創設
1967 (昭和42)年	2月	各種学校芦屋芸術学院認可
1974 (昭和49)年	1月	学校法人認可
1976 (昭和51)年	4月	芦屋芸術学院専門学校認可
1982 (昭和57)年	8月	無料職業紹介事業許可
1988 (昭和63)年	11月	文部省専修学校職業教育高度化開発研究校に指定
1990 (平成2)年	4月	文部省専修学校開放講座実施校に指定
	10月	芦屋市市民文化賞受賞
1991 (平成3)年	4月	校名を「芦屋芸術情報専門学校」と改称し、六甲アイランドに移転
2001 (平成13)年	4月	校名を「専門学校アートカレッジ神戸」と改称
2002 (平成14)年	4月	学校法人神戸学園に設置者変更 (兵庫県知事認可)
2005 (平成17)年	2月	西校舎を増設 (姉妹校: 神戸動植物環境専門学校)
2008 (平成20)年	4月	高等課程設置認可 総合アート学科 (3年制) を設置
2013 (平成25)年	4月	校名を「神戸スポーツアート Cocoro 専門学校」と改称
2015 (平成27)年	4月	校名を「専門学校アートカレッジ神戸」と改称
2016 (平成28)年	4月	国際コミュニケーション学科を設置
2018 (平成30)年	4月	観光学科を設置
2021 (令和3)年	4月	ダンスインストラクター学科、通信制学科、DXビジネス学科を設置
2022 (令和4)年	4月	DXビジネス学科(2年制)、eスポーツ学科を設置

4. 学科の構成

専門課程

・文化・教養専門課程

アートデザイン学科（イラストデザイン学科）
国際コミュニケーション学科
ダンスインストラクター学科
観光学科
通信制学科
DXビジネス学科(1年制)
DXビジネス学科(2年制)
・工業専門課程
航空グランドハンドリング学科
高等課程
・文化・教養専門課程
総合アート学科

5. 学生数及び教職員数

- ・2022年5月1日時点学生数：929名
- ・2022年5月1日時点職員数：84名

6. 施設の概要

学校建物面積：2,810 m²（設置者所有 2,729 m²、借用 81 m²）

学校土地面積：2,845 m²

II. 評価の基本方針

自己評価は、本学の指名である学生・保護者満足を目指し、日々着実に経営し、職業教育を行うことで、その成果として業界への就職実績を上げるという目的に対して、それぞれの項目ごとの進捗を判断するものとする。

III. 重点目標

1. 学生募集への積極的な取組

定員数を充足する学生の入学を実現する。

2. 社会への即戦力を輩出するための実践的な教育の実現

①教育理念・教育目標の周知徹底を図り、②教育環境を整え、③日々の教育活動を通じて、④学習成果を高め、具体的には学生の出席率の向上及び退学除籍率の低減を実現する。

3. 学生の就職率の向上

学生支援を通じて、卒業生の就職率の向上を実現する。

4. 適切な学校運営法令順守等

適切な学校運営を行うとともに、法令順守体制を整える。

IV. 重点目標 評価ごとの記述

1. 学生募集への積極的な取組

定員数を充足する学生の入学を実現する。

【具体的な取り組み】

兵庫県内の高等学校への訪問を強化し、2022年4月から2023年3月にかけて毎月進路担当者及び部活の顧問に訪問し、本学の学校説明や教育方針・就職活動等を伝えると共に、入試制度やオープンカレッジ等のイベントの案内を行った。

2022年4月から2023年3月にかけてオープンカレッジや見学会を開催し、学校説明・入試説明・校舎見学・職業体感などを行った。2022年度は44回実施し、延べ371名が参加した。さらに、出願者を増やすために、県内を中心としてガイダンス業者主催の校内ガイダンスや会場ガイダンスに多数参加している。2022年度は12件参加し、50名の生徒が本学ブースに着席した。

各種媒体による広報は、パンフレット、募集要項、ホームページ、各種ポスター、SNS等、不特定多数に情報発信している。本学の売りや実績を伝えられる広報物を、入学対象の生徒に見てもらい、本学を選ぶ手段の一つとなるよう製作し、紙媒体の広報物は資料請求者および高等学校関係機関に配布した。

上記の施策の結果、2023年度は1学年の定員130名に対して入学者60名となっている。

【所感】

評価項目	評価
目的等に沿った運営方針が策定されているか	4
事業計画に沿った運営方針が策定されているか	4
運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	4
人事、給与に関する制度は整備されているか	4
教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	4
業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	4
教育活動に関する情報公開が適切になされているか	4
情報システム化等による業務の効率化が図られているか	4

適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

各高等学校への訪問を積極的に実施することで、進学担当者だけでなく学校長・理事長にも本学の教育理念やビジョンに共感頂き、学生募集でご協力を頂けた。本学へ進学実績のある高等学校に対しては、定期的な訪問を通じて卒業生の状況を逐一報告し、進路担当者およ

び元担任に安心して頂けるよう広報を行った。また、本校に入学を検討している生徒に対しては、ただパンフレットや募集要項をお送りするのではなく、本学の取り組みについて電話での学校説明を通じてお伝えしたことで、多くの出願者を得ることができた。

2. 社会への即戦力を輩出するための実践的な教育の実現

①教育理念・教育目標の周知徹底を図り、②教育環境を整え、③日々の教育活動を通じて、④学習成果を高め、具体的には学生の出席率の向上及び退学除籍率の低減を実現する。

【具体的な取り組み】

専門学校アートカレッジ神戸は教育基本法および学校教育法に基づき高等学校における教育の基礎の上に文化・教養課程を設置し、「好きな事を仕事に」の基本理念を掲げ、教育に携わっている。この教育理念は、第一に授業（カリキュラム・シラバス）、第二に就職指導として具現化している。

第一の授業（カリキュラム・シラバス）については、デザインの観点から実施をしており、「好きな事を仕事に」の基本理念を浸透させている。また、各クラスにおいて専門分野で必要な実技科目を取り入れ、社会で必要な技術や知識といった能力に焦点を当てた授業を行っている。このようなアプローチはアクティブラーニングの潮流に合致するものでもあり、主体的・能動的な態度をもった学生の育成という面でも評価できる。

第二の就職指導について、インターンシップや就職活動の際に本当にやりたいことが何なのかという問題や葛藤に直面する。その問題解決や葛藤を乗り越えるために、「好きな事を仕事に」という理念にもとづいたサポート・指導を行っている。これはデザイン業界の理解につながり、将来のデザイン業界に求められる人材の育成にもつながっていると認識している。

専門学校アートカレッジ神戸は、社会への即戦力を輩出するための実践的な教育の実現のための取り組みとして、最先端のカリキュラムを具現化している。一例として、優れたデザイナーを輩出するために、デジタルとアナログを融合させた授業を行っている。こういった応用を身につけることの出来る設備環境と、基礎的な知識を身につける座学を組みあわせることで、学習効果を高めている。さらに、学生の出席率の向上および退学除籍率の低減のために、欠席をした学生には自宅に電話をして安否を確認し、定期的な出席不良者には面談を実施している。

【所感】

評価項目	評価
教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか (専門分野の特性が明確になっているか)	4
学校における職業教育の特色は定められているか	3
社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4

理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者・関係業界等に周知されているか	4
各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	4

適切… 4、ほぼ適切… 3、やや不適切… 2、不適切… 1

本学はデザイン業界の発展を目標に、業界で必要とされる人材を輩出するために、常にチャレンジングな教育施策に取り組んでいる。こういった時代の最先端を先読みし、必要な施策を実践する学校は他には無い。

また、このような本学の姿勢が時代のニーズにマッチしており、学内外で評価されていることが、学生の高い出席率や退学率の低減だけでなく、毎年定員数の充足に繋がっていると考えられる。

3. 学生の就職率の向上

学生支援を通じて、卒業生の就職率の向上を実現する。

【具体的な取り組み】

(1) 学生への技術指導と就職試験対策

本学の学生への技術指導と就職試験対策としては第一に「授業内指導」、第二に「個別指導」があげられる。

第一の「授業内指導」について、全ての授業で、その科目が必須となる業界の説明や必要なスキルを身につけて、即戦力として働ける能力とビジネスマナーを習得できる授業を行った。デザイン・広告・アート関係の職業や仕事は種類が多く、業界、業種を理解する必要があるため、授業内での指導を重点に置いて行いました。

第二の「個別指導」について、放課後の時間を利用した教師と学生のマンツーマン指導又少人数指導における、面接指導および履歴書作成指導、企業とのメールのやり取りの指導である。これは、上記の内定率達成にむけての援助となった。また個々の学生のニーズに合わせた企業斡旋、企業情報の提供しマッチング作業を行っている。

面接指導や履歴書作成指導については、学生の個々の性質に合わせ、どんな企業相手にも通用できるように技術的向上と仕事ビジョンの育成に取り掛かっていた。

(2) 学内における就職説明会の実施

企業に校内企業説明会を実施してもらい、業界説明や必要なスキルについて説明して実施しています。就職希望学生には、その場で面接まで行う流れを構築しました。実施した企業としては県内外のデザイン・広告・アート関連企業である。また、新規開拓も行い、2020年度の求人獲得件数は74件となっている。

(3) その他の取り組み

その他の取り組みとしては主に学生が企業インターンシップへ参加することに対する柔軟な対応があげられる。基本は学校が長期休みの際に企業インターンシップへの参加となっているが、学生の出席率に影響が出ない程度で、企業側の要望に合わせて担当の職員が学生と企業間に入り個別対応を行っていた。

【所感】

評価項目	評価
就職率の向上が図られているか	3
資格取得率の向上が図られているか	3
退学率の低減が図られているか	4
卒業後のキャリア形成への効果を把握し、学校の教育活動の改善に活用されているか	4
卒業生・在学生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	4
進学・就職に関する支援体制は整備されているか	4
学生相談に関する体制は整備されているか	4
学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	4
社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4
高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	4
関連分野における業界との連携による卒後の再教育プログラム等を行っているか	3

適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

就職内定率を前年比より上げることができたのは、積極的な校内企業説明会の実施と、動物関連施設への訪問活動、積極的な学生個々へのサポート体制（情報斡旋や個別指導）を密にしたこと、そして授業カリキュラムの工夫・教職員の指導力の向上があったからだと言える。

4. 適切な学校運営法令順守等

適切な学校運営を行うとともに、法令順守体制を整える。

【具体的な取り組み】

認可団体である兵庫県との連絡を密にするため、担当者を設置し、兵庫県企画県民部私学教育課からの通知に対して、即座に本部及び学内組織で共有を図り、活動においての定例の会議を開催し報告を実施している。法律顧問弁護士を設置し課題が起こった際の即座の質問を行える体制をとっている。

【所感】

評価項目	評価
法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4
個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4
自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	4

自己評価結果を公開しているか	4
----------------	---

適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

定例の会議体と決定事項を顧問弁護士団に法的問題ないかを確認し常に法令遵守を心掛けています。昨今の教育現場は保護者とのかかわり、学校・学生を取り巻く社会とのかかわりなど複雑な状況を呈しており、顧問弁護士団からの法的な視点からの助言は非常に役立っています。

以上

項目評価

1. 教育理念・教育目標

自己評価項目	評価
教育理念・教育目的は、学校の教育上の特徴を示しており、かつ、法との整合性がある。	4
教育理念・教育目的は、具体的に明示され、実際の指針となっている	4
教育理念・教育目的は、社会経済のニーズをふまえた学校の将来構想を抱いているか	4
教育理念・教育目的は、特色・将来構想などが学生・保護者に周知されているか	4
各学科の教育目標、育成人材象は学科等に対応する業界のニーズに向けて方向付けられているか	4

(4)適切(3)ほぼ適切(2)やや不適切(1)不適切

2. 学校運営

自己評価項目	評価
目的等に沿った運営方針が策定されているか	4
運営方針に沿った事業計画が策定されているか	4
運営組織や意志決定機能は規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	4
教務・財務等の組織整備など意志決定システムは整備されているか	4
人事、給与に関する規定等は整備されているか	4
業界や地域社会に等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	4
教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	4
情報システム化等による業務の効率化が図られているか	4

(4)適切(3)ほぼ適切(2)やや不適切(1)不適切

3. 教育活動

自己評価項目	評価
教育理念などに沿った教育課程の編成・実施方策などが策定されているか	4
教育理念、育成人材象や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4

学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4
関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成、見直し等が実施されているか	4
関連分野における実践的な職業教育が体系的に位置づけられているか	4
授業評価の実施・評価体制はあるか	4
職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	4
成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	4
資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	3
関連分野における業界等との連携において優れた教員を確保するなどマネジメントが行われているか	4
関連分野における先端的な知識・技能等を習得するための研修や教員の指導力の育成など資質向上のための取組が行われているか	4
職員の能力開発のための研修などが行われているか	3

(4)適切(3)ほぼ適切(2)やや不適切(1)不適切

4. 学習成果

自己評価項目	評価
就職率の向上が図られているか	3
資格取得率の向上が図られているか	3
退学率の低減が図られているか	4
卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	4
卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	4

(4)適切(3)ほぼ適切(2)やや不適切(1)不適切

5. 学生支援

自己評価項目	評価
進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4
学生相談に関する体制は整備されているか	4
学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	4
学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4
課外活動に対する支援体制は整備されているか	4
学生の生活環境への支援は行われているか	4
保護者と適切に連携しているか	4
卒業生への支援体制はあるか	4
社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4

高校・高等専修学校との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	4
--	---

(4)適切(3)ほぼ適切(2)やや不適切(1)不適切

6. 教育環境

自己評価項目	評価
施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4
学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4
防災に対する体制は整備されているか	4

(4)適切(3)ほぼ適切(2)やや不適切(1)不適切

7. 学生募集

自己評価項目	評価
学生募集活動は適正に行われているか	4
学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4
学納金は妥当なものとなっているか	4

(4)適切(3)ほぼ適切(2)やや不適切(1)不適切

8. 財務

自己評価項目	評価
中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4
予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4
財務について会計監査が適正に行われているか	4
財務情報公開の体制整備はできているか	4

(4)適切(3)ほぼ適切(2)やや不適切(1)不適切

9. 法令遵守

自己評価項目	評価
法令、専門学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4
個人情報に対し、その保護のための対策がとられているか	4
自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	4
自己評価結果を公開しているか	4

(4)適切(3)ほぼ適切(2)やや不適切(1)不適切

10. 社会貢献

自己評価項目	評価
学校の教育資源や施設を利用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4
学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	4

地域に対する公開講座・教育訓練の受託等を積極的に実施しているか	3
---------------------------------	---

(4)適切(3)ほぼ適切(2)やや不適切(1)不適切